

20. 甲賀郡水口町

泉所在の古墳群

鈴鹿山系に源を発する野洲川は、土山、水口、石部、甲西の各町を経て野洲、中主、守山で大三角洲を形成して琵琶湖に注ぎ、その下流域は肥沃な穀倉地帯になっている。その姿は近江のナイルと呼んでも誇張ではない。この野洲川が作る内陸盆地の水口地域は、右岸平野は安定した稲作地帯であり、左岸山麓部には、酒入山古墳群、岩坂古墳群、高山古墳群など、多くの著名な古墳群が存在している。

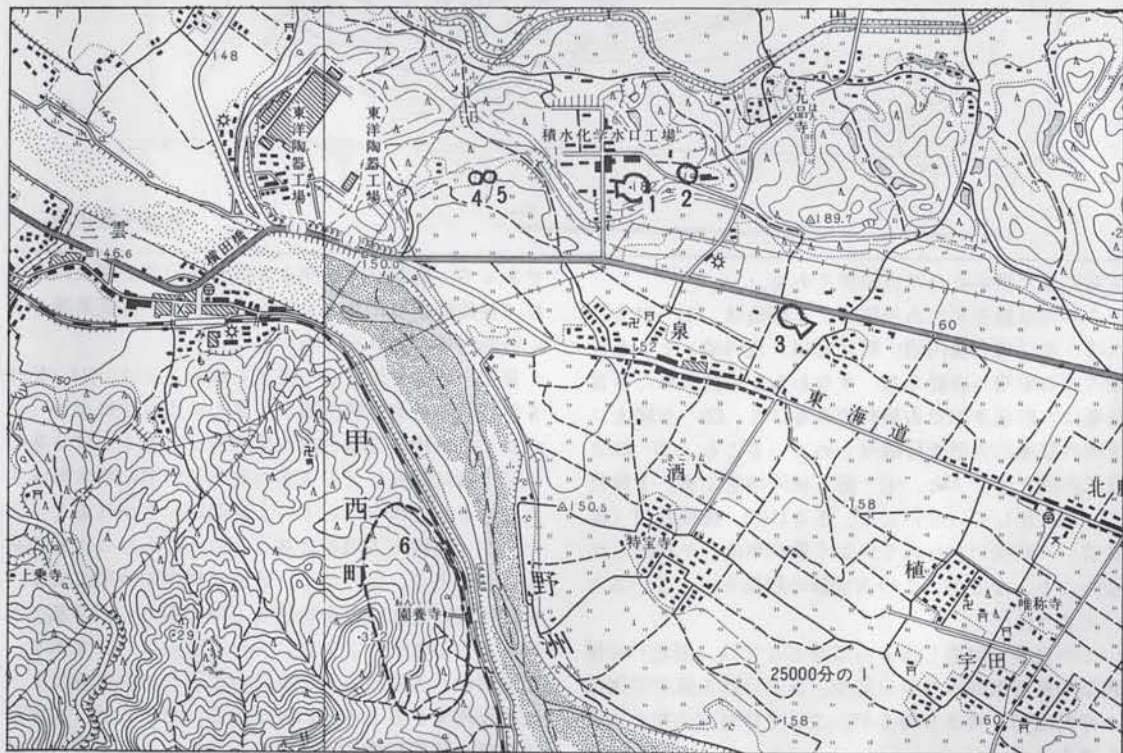
他方、右岸の段丘上には、上記古墳群とは全く異質な泉古墳群がある。この古墳群は、水口地域における最高首長の代々営まれた奥津城であって、政治的地域首長系譜墓群と呼び直すことが出来る。このうち、西

罐子塚古墳は全長60m、後円部直径50m、高さ5.2m、前方部長さ20m、幅20m、高さ2.5mを誇る郡内唯一最大の帆立貝式古墳で、墳丘からは葺石、埴輪が発見されている。また、東罐子塚古墳は、直径42m、高さ5.5mの巨大な円墳で、円墳としては甲賀郡最大である。

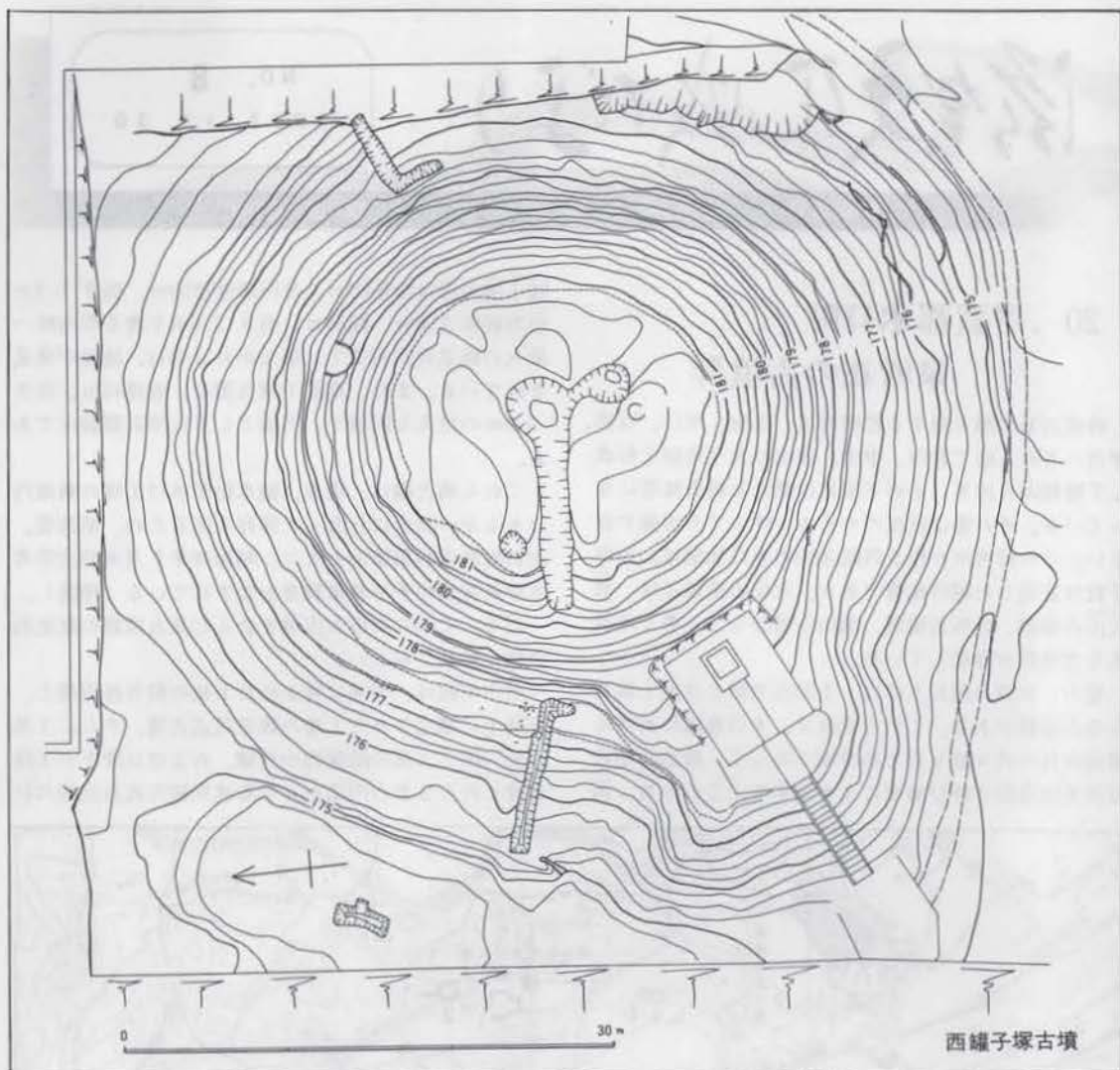
これら両古墳は、現在、積水化学水口工場の敷地内にあるが、将来にわたって保存を図るため、県教委、水口町教委の指導のもとに、昭和48年7月大谷大学考古学研究会の手で測量調査がなされている(挿図)。

以下、これらの巨大古墳を含んだ泉古墳群の歴史的 성격に触れてみたい。

泉古墳群は、平地に営まれた1基の前方後円墳と、丘陵上に築造された1基の帆立貝式古墳、さらに1基の大円墳と3基の陪塚的小古墳、および丘陵下の段丘に営まれた2基の円墳からなる後期横穴式石室墳の計



1. 西罐子塚 2. 東罐子塚 3. 塚越(罐子塚) 4,5. 後期横穴式石室墳
6. 酒入山古墳群(百基以上の大群集墳)



8基により構成された古墳群である。

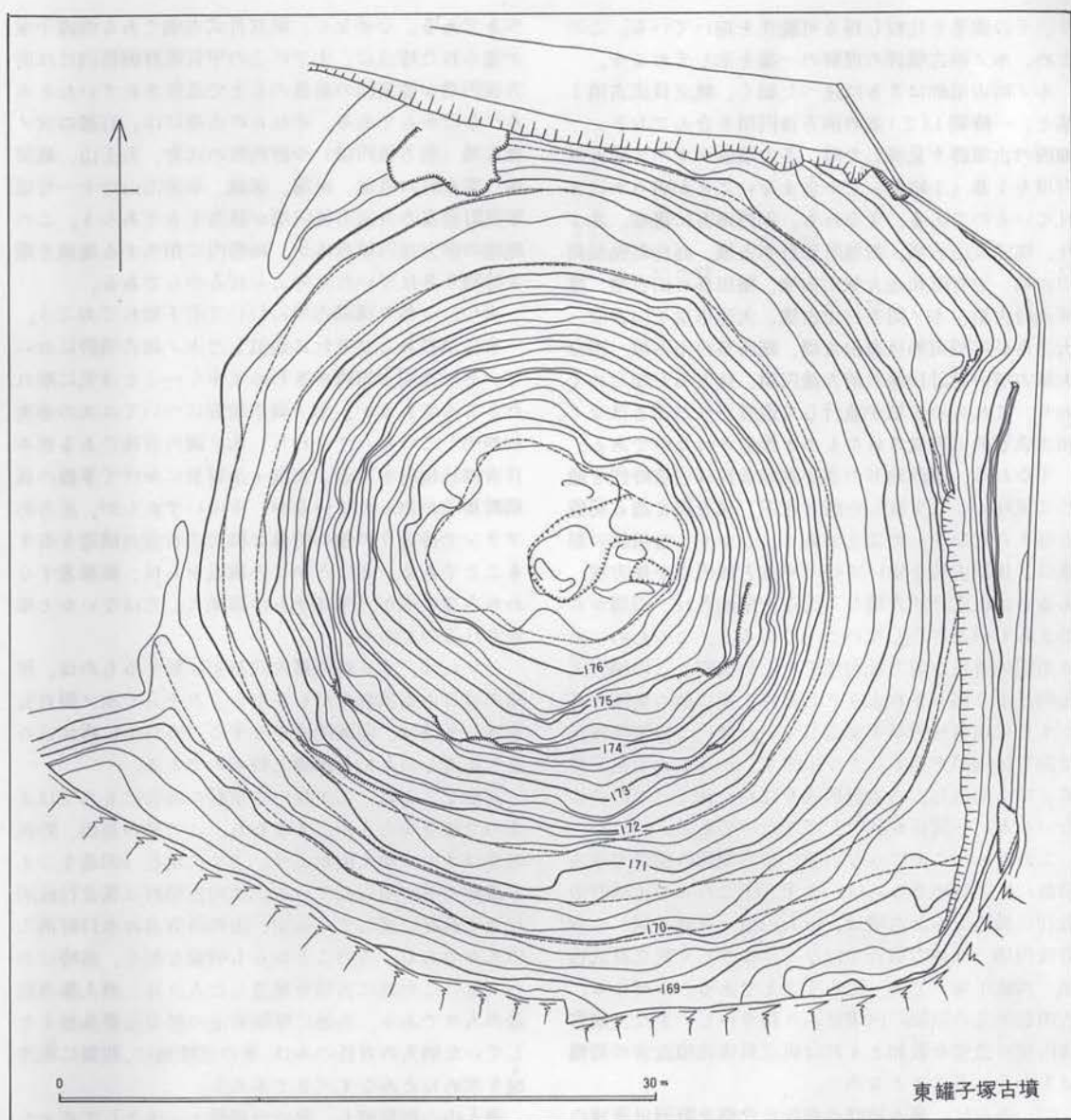
この古墳群を泉型古墳群とする特徴は、(1) 巨大な古墳3基（前方後円墳、帆立貝墳、大円墳）と2基の横穴式石室墳の合計5基、すなわち5世代にわたる首長墓にて形成された古墳群であること、(2) 丘陵上に3基の陪塚的古墳を付随せしめていること、(3) 帆立貝式古墳を含むこと、(4) 前方後円墳を1基、1世代にしか造営していないこと、さらに(5) 後期古墳（群集墳）の形成がきわめて少なく最少単位しか認められないこと、などが、この古墳群の特徴を示しているといえよう。

この泉型と対置し得る古墳群としては、湖北の古保利型や長浜市域の長浜垣籠型、あるいは大阪府高槻市の弁天山型を明示し得るが、ここでは弁天山型と比較してみよう。

弁天山古墳群とは、高槻市弁天山を中心に茨木市の安威川から高槻市の芥川にかけて広がる巨大な古墳群

であって、前期から後期まで前方後円墳が順次形成され、後期群集墳に及んでいる。ただし、首長系譜を引く後期古墳の数は比較的少ない。

泉型をこれと比較して感じられることは、(1) なぜ5世代のうち前方後円墳が1基しか築造されなかったのか、5世代に5基の前方後円墳が、あるいは2基の後期古墳は除外しても3基の前方後円墳が順次形成されてもよいではないかという疑問がいだかれよう。また、(2) 後期の古墳が2基しかみられないことも特異なことである。なぜなら、首長墓群中の後期古墳は、首長家族の家族構成を物語るものであって、2基となれば、一小家族の2世代にわたるものにしかすぎず、これだけの大規模古墳を造営してきた首長家族にしては小規模すぎるとみるわけである。たとえば、古保利古墳群や長浜垣籠古墳群においても、また野洲の古墳群においても、横穴式石室を内部主体とする後期古墳は、少なくとも10基以上は存在しているからである。



他方、県下において、この泉型と呼びうるものとしては、大津市下阪本比叡辻木ノ岡山にある木ノ岡古墳群を提示することができる。

木ノ岡古墳群は、丘陵上の1基の帆立貝式巨大墳と3基の陪塚的古墳、1基の前方後円墳（この前方後円墳に接してもう1基前方後円墳が存在したといわれるが現在不明、ただし、1時期に2前方後円墳があったとしても不都合ではない）、さらに丘陵下の車塚ほか円墳3基と丘陵奥の1基の横穴式石室墳など総計9基からなり、泉の8基と大差はない。しかも、帆立貝式古墳1基、前方後円墳1時期1基で横穴式石室もわずか1基しかみうけられない。ただし、木ノ岡丘陵下の来迎寺境内に石棺仏があるため、あるいは石棺をもった横穴式石室がもう1基あった可能性があり、そうな

れば、この地の後期横穴式石室墳も最低2基はあったことになろう。しかし、10基あるいはそれ以上の後期古墳を予想することは全く不可能である。

また、陪塚的古墳も両古墳群とも3基築造しており、きわめて類似しているといえよう。

これら両者を正しく比較するすべをもたないが、木ノ岡の丸山古墳（帆立貝式）と茶白山古墳（前方後円墳）がずば抜けて大きいことは看取されよう。ちなみにこの帆立貝式古墳は現在宮内庁にて天智天皇后陵として陵墓に比定されているが、もちろんこれは史実ではない。

では、この泉の古墳群について、いかなる歴史の評価を下していけばよいのであろうか。

幸い木ノ岡の古墳群については若干の見通しを得てお

り、その成果を比較し得る可能性を抱いている。このため、木ノ岡古墳群の理解の一端を示しておこう。

木ノ岡古墳群はさきに述べた如く、帆立貝式古墳1基と、一時期1(2)基の前方後円墳を含んでおり、湖西の古墳群を見渡した時、各古墳群がすべて前方後円墳を1基(1時期)しか含まないことが明らかにされているのである。すなわち、湖西地方に現在、北より、塩津丸山古墳、新旭町熊野本古墳、高島町鴨稲荷山古墳、志賀町和辻大塚山古墳、堅田春日山古墳、雄琴高峰古墳、木ノ岡茶白山古墳、大津市皇子山古墳、大津市長等稲荷神社裏山古墳、膳所茶白山古墳、国分大塚古墳の総計10基の前方後円墳、後方墳が知られており、これらの古墳が並行して造営されたことはなく、順次成層的に形成されたものと推定されたのである。

すなわち、湖西地方の各小地域首長は古墳時代を通じて原則として1度しか前方後円墳、後方墳を造る契機を与えられなかったようであり、しかも、古墳群の形成は、後期古墳を除いて必ずや前方後円墳か後方墳、あるいは帆立貝式古墳から築造が開始され、円墳から始まるものが存在しないことであろう。このため、ある集団の首長が前方後円墳を上位の集団、この場合大和朝廷より賜与されようとした時、先に他の集団首長がすでに前方後円墳を築造していれば、この集団首長は前方後円墳を造ることが出来ず、とりあえず帆立貝式古墳を築造し、古墳群形成を認められていたのではないかとこの関係が判明してきたのである。

このため、このような古墳の築造契機の論理を泉古墳群にあてはめるならば、まず、(1)これらの古墳群中最初に築造をみた古墳は、巨大円墳(東鑑子塚)や前方後円墳(塚越古墳)ではなく、まさしく帆立貝式古墳(西鑑子塚)であったろうことである。なぜなら、古墳群築造の開始に円墳はあり得ないし、また、前方後円墳の造営を最初とすれば帆立貝式古墳造営の契機は失なわれることとなる。

(2) さらに、泉古墳群の首長の性格を野洲川流域の絶対的専制君主とみるべきではなく、少なくとも現甲賀郡野洲郡域内相当の広範囲内の中心的首長と評価す

べきである。なぜなら、帆立貝式古墳である西鑑子塚が造られた時点に、すでにこの甲賀郡野洲郡内には前方後円墳が他集団の首長のもとで造営されていたとみるべきだからである。それらの古墳には、石部の宮ノ森古墳(前方後円墳)や野洲町の穴倉、天王山、越前塚、栗東町の亀塚、車塚、塚越、草津市山寺十一号墳、甲賀町岩室の各前方後円墳が該当するであろう。この地域の前方後円墳自体が、両郡内に相当する地域を順次持廻りされていたと考えられるからである。

次に、2基の後期古墳について若干触れておこう。

泉古墳群およびそれに類似した木ノ岡古墳群において、その後期古墳数がきわめて少ないことは先に触れたところであるが、木ノ岡古墳群については次の事実が判明している。すなわち、木ノ岡の背後にある坂本日吉神社境内から南、穴太・滋賀里にかけて多数の後期群集墳が知られているが、そのいずれもが、正方形プランで持送りの強い特異な横穴式石室の構造を有することである。ところがこの構造からは、被葬者すなわち古墳の主が「半島からの渡来人」ではないかと推定されるのである。

とすれば、木ノ岡の横穴式石室に類するものは、堅田の春日山古墳群中にしかなく、おそらく木ノ岡首長家族の多数は、同族関係をなすこの春日山に横穴式石室を築造したものと推測し得るのである。

同様なことは、この泉の古墳群の場合にもあてはまるのではなかろうか。すなわち、この泉の南西、野洲川をはさんで酒人山があり、ここに現在100基をこえる後期古墳が知られている。この古墳群は現在行政的には甲西町に属しているが、山の所有者は水口町酒人の人々である。このことから明瞭な如く、当時においても、この地に古墳を築造した人々は、酒人集落周辺の人々であり、当地に専制君主の勢力主要基盤をなしていた酒人の首長のみは、泉の丘陵地に、別個に奥津城を求めたとみなすべきであろう。

酒人山の群集墳も、泉の古墳群と一体として考えた場合に、水口の隠された古代史の一駒が浮かびあがってこよう。(丸山竜平)

野洲川流域における首長墓一覽

| 遺 跡 名 | 墳 形 | 全長(m) | 出 土 遺 物 |
|-------------|-------|-------|------------------------|
| 野洲町天王山古墳 | 前方後円墳 | | 勾玉、朱(石材) |
| 栗東町亀塚古墳 | 前方後円墳 | (65) | 鏡(1面)、刀、土器 |
| 栗東町安養寺大塚越古墳 | 前方後円墳 | (75) | 鏡(2面)、勾玉、琴柱形石製品、刀、劍、短甲 |
| 栗東町山寺北谷11号墳 | 前方後円墳 | | 鏡(1面)、鉄火形石(5個)、鉄製品 |
| 石部町宮ノ森古墳 | 前方後円墳 | 52 | 刀、劍 |
| 水口町泉塚越古墳 | 前方後円墳 | (66) | |
| 栗東町林車塚古墳 | 前方後円墳 | | |
| 野洲町越前塚古墳 | 前方後円墳 | 61 | |
| 野洲町穴倉古墳 | 前方後円墳 | 35 | |
| 甲賀町岩室古墳 | 前方後円墳 | | |